



従来のコンクリートブロック(左)と、施工後4年で植物が根付いたというナチュロック

## 自然石利用ブロックの成果

# 国際会議で発表へ

西桂町に本部を置く土木用の環境資材会社「日本ナチュロック」(佐藤悦三社長、本社・東京都港区)が、あす二十五日から二十八日まで、イタリヤのベネチアで開催される、コンクリートブロックなどプレキャスト製品メーカーらの国際会議「BIM99」で、自然石を利用した自社ブロック製品と景観保護について発表する。関係者によると、今年で十六回目となる同会議で、日本企業の論文が発表されるのは珍しいという。

### 西桂の土木用資材会社

富士山を見ながら育った佐藤悦明専務は、富士山ろくや河原の石といった地元の自境(ビオトープ)が生まれる護岸工事などで普通のコンクリートブロックが広く使われ、自然石を埋め込み、土地の風景などの特性があるという。登りを見ながら「白っぽくて自立」「ナチュロックを開発した。山道の落石防止用壁材に採用されるなど富士山周辺で使わ

## 景観、動植物保護に効果

つブロックは、少しも富士山の景観にそぐわず、不自然と強い違和感を感じたという。このため一九八七年(昭和六十二)、西桂町に同社を

ナチュロックは、自然石で覆っているほか、建設省が河川の景観を覆っているため景観に強い違和感を感じたとい

表面を覆っているため景観に強い違和感を感じたとい

なじむほか、溶岩など多孔質の素材を使っているためコケな意識の高まりもあって、当初も受け入れられると思

八千万円程度だった売上も現

在は約八億五千万円に成長している。

国際会議での演題は「持続可能な開発のためのプレキャストコンクリート製品」。ナチュロックのこうした特性を、スライドなどを交えて十五分間発表するほか、既存のコンクリートブロックに張り付けるだけという、薄型コンクリートボードと同様の自然石を埋め込んだ新製品も紹介する。

佐藤専務は「伝統的な石垣